

### 三十三 石村兄弟

昭和十年の全国中等学校中根式速記競技大会のときでした。福岡商業選手の石村善兵衛さん（現在は暢五郎と改名）とその弟さんの福岡市立奈良屋小学校五年生の石村善助さんと同三年生の石村善治さんの兄弟たちが、善兵衛さんの兄さんの石村善右さんに連れられて上京して来たのです。善助さんは十一歳、善治さんは九歳、二人とも速記が非常に上手でした。このことが大会に祝辞を出される松田文部大臣のお耳に入り、会われることになったのです。他の式では二年も三年もかかって速記ができるようになっても天才だといわれるほどののに、中根式の子供が出来るのかとって報道関係でも非常に驚かれ、全国の新聞などに大きく掲載され、ラジオで全国に放送されたのでした。いよいよ大臣がお会いになる時は、たまたま上京しておられた福岡の市長さんが新聞を見て出席されたのでした。大臣は最初は自分で簡単な話をされて書かせられたのですが、後には自分で立ち上がって書棚のところに行き、その当時、小学校の五年生で使っていた国語の教科書を持って来て、それを読んで書かせられたのでした。これがまた全国の新聞や雑誌などにも、中根式のこどもが速記が上手で大臣がほめちぎられたとって写真入りで載せられたのでした。